

町の医療 あるべき姿の協議は 来年度中を目標に計画作成



はまむら みか 議員
濱村 美香

問 町の医療について、昨年4月以降どのように協議がなされたか。

答 「町の医療のあるべき姿」をどのように検討していくか。

答 青木地域住民課長

4月以降、4回の検討会を重ねて協議してきた。住民が医療体制についてのどのような考えを持っているかニーズ調査により把握した上で検討。令和5年度中の作成を目標に町の方向性を示す。

問 介護と医療はそれぞれニーズに違いがあり、アンケートの回答が多いほど正確な把握ができるが、その工夫は。

答 佐田健康福祉課長

12月に実施のアンケート調査では、65歳以上の4千人余りを対象としている。若い世代に対してデジタルを活用した町発信のLINEを活用し、他には子育て支援センター等で発信していく。

問 疾病予防に関して、早期発見、早期治療は、本人の負担軽減や医療費削減に大きな効果がある。その取り組みはどのようなものか。

答 青木地域住民課長

健康診断の充実と、受診率のアップにつながる。ことが早期発見につながる。今後もその方向性で取り組む。

コロナ対策 教育現場の 柔軟な 学校の裁量で

問 コロナ禍になり3年が経過。感染対策が長期化することにより、マスク生活や給食時の黙食等による弊害が心配される。町の基準を問う。

答 藤本教育次長

教育現場の方針は、文科省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニ

アル」に基づき、保育所、小中学校に指示している。登下校時、体育、部活動の時にはマスク着用させていない。保育園児への着用も求めている。

農福連携 取組みと 現状は 事業所を通じ 実績あり

問 農業と福祉の連携の現状について問う。

答 渡辺農業振興課長

幡多地域では、令和2年6月に連携協議会を立ち上げ、令和3年度より活動がスタートしている。幡多農業振興センターが事務局となり、現地視察や意見交換を重ね、現在は、JAでニラの計量結束作業やレモン農家の除草作業を福祉事業所に依頼している。現状委託型が中心であり、障害のある方が直接農家への就労にはつながっていない。

答 畦地教育長
成長期の子どもたちは、ちへのマスクの弊害は個人的には大変危惧している。国の基準に従いながら各学校が校長の裁量で柔軟に対応している。



農家さんが収穫したピーマンを丁寧に拭き上げ、袋詰め作業を自分のペースで行う